



## 日本経済の父「渋沢栄一」 第二回

講師 一龍齋貞花



マネージメントの父とも言われるドラッカーが、著書「断絶の時代」と「マネージメント」の中で、渋沢の思想と経営姿勢を強く支持し、特にマネージメントの序文で、「経営の社会的責任について渋沢の右に出る者を知らない」「彼は世界の誰よりも早く経営の本質は、責任にほかならない」ということを見抜いていた」と、絶賛しています。

渋沢さんが、新一万円札に。何度もお札の候補になったが偽造防止のため肖像に髭のある人物でなければいけません。渋沢さん髭がなかったのでこれまで採用されなかったんです。皆さんの財布に渋沢さんが一杯になるといいですねー。

尊王攘夷の志を有した渋沢栄一。一

橋慶喜の腹心平岡四郎の推挙で、一橋家の家来となった栄一といふこの喜作は、平岡から各藩の留守居役や公家の屋敷へ使いに出されたが、相手の動向を探るよう命ぜられたこともありました。

「大坂にいる折田要蔵という薩摩藩士が、築城に造詣が深く慶喜公が講義をお聴きになり、天保山口、木津川口など十五カ所に台場を築くよう話した由で、折田の実力次第では幕府でもらい受けても良いと思うが、お前は内弟子となつて住込み、人物を調べて参れ」

内弟子とは言え隠密、一橋から派遣というのは目立つので、「修行のため塾生となりたいといふことにして住込み、但し薩摩の中へ飛

び込むのだから、ことによつたら殺されるかもしれないぞ」

「構いません。一度は死ぬ覚悟をした私です。お国のために働いて殺されるのは本望です」

「わしは、お前のそういう気性が好きだ。頼んだぞ」

折田の中へ入つてみると大層な羽振りだが、人の受け売りで実力などないと、二カ月で見極め引上げることになり、後の海軍大将川村純義、後の警視總監三島通庸らが送別会を開いてくれた。酒が進むにつれて一人が、

「渋沢は回し者だから斬つてしまおうということになり、俺がその斬り役に決まったが、途中でそれには及ぶまいということになったんだ」

藩士たち声を立てて笑つたが、栄一は背筋が凍りつく思いでした。

偵察してきたことを平岡に詳しく報告。

「大いにご苦労であつた」

恩人平岡暗殺される

「平岡様が、暗殺されたぞ！」

平岡は攘夷派から、

「あ奴は開国派だ。慶喜公の懐刀で慶喜公が攘夷を決行しないのは、平岡が妨げているからだ」

血気にはやる水戸浪士に暗殺されてしまった。平岡四郎四十三歳の働き盛り。命の恩人ともいえる平岡の死に栄一、喜作は落胆。

慶喜は、

「わしの身代わりになつた」と、顔

を覆って泣いたと申します。

水戸藩士七百人からなる天狗党も惨敗したという。かつてわずかな人数で高崎城乗っ取りを考えた栄一でしたが、その後の経験から天狗党の決起は、過激の輩としか思えませんでした。

平岡に代わって側用人となった黒川嘉兵衛に、

「上様は京都の御所を守るお立場ながら、ご自身の家来が少のうございませ。一橋家の領地摂津、和泉、播磨、備中の四カ国から農民を募り、常備軍と致したらよかろうと存じます」

この建白により、歩兵取立人撰御用という役目を仰せつかり、二十六歳の栄一は備中へ。

役目柄駕籠に乗り、「下におろつ」

という布令に、羽織袴の庄屋達が平伏して出迎えます。

九年前、陣屋で代官に威張られた時と逆の立場です。

領内の二男、三男以下を代官所に呼び出し歩兵募集の話。

ところが誰一人申し出る者がいな

い。そこで酒宴を開き気軽に話をする

と、打ち解け代官が邪魔をしていることがわかり、

「重大な任務に不協力とあれば、御領主である慶喜公からいかなるご沙汰があるやもしれんぞ」

さらに親孝行者、貞節な妻、篤農家、忠実な奉公人など約十人を表彰。

摂津で安く売っていた年貢米を、灘や西宮の造り酒屋に売ること。木綿を大坂で売ること。備中では、家の床下から硝石が出るのが判り、硝石は火薬の原料です。硝石製造所を設けることを提案して実行に移すなど、後の実業家渋沢の力が発揮されたのです。

かくして五百人の農民兵を集め、「満足に思うぞ」

と、慶喜からねぎらいの言葉をかけられ、ご褒美を頂いたのでございました。

慶喜十五代将軍に就任

元治元年、幕府は長州征伐を決行、外国の連合艦隊が長州に押し寄せたので、長州は戦わず降参。

しかし、二度目の慶応二年薩摩と長州が手を握り幕府は敗北。

栄一は、従軍するところだったが、十四代将軍家茂が亡くなり、和議が結ばれ後任の十五代将軍に慶喜就任の噂。慶喜が将軍になれば栄一は、徳川幕府の家来となり、幕府打倒の望みは無くなってしまふ。

慶喜は、徳川家は継ぐが、将軍にはならないと断つたものの、結局十五代将軍に就任。

栄一は、「徳川慶喜公伝」の中で、「余は失望落胆、不平不満やるかたなかりけり」と、書いています。

栄一は、西郷隆盛だけでなく、桂小五郎、大久保利通、新選組の近藤勇、土方歳三等とも会っています。

後の大実業家が、幕末を騒がせた人たちと会っていたというから驚きです。これも用人平岡四郎、黒川嘉兵衛が栄一を見込んで活用したればこそございました。

かくして栄一は、幕府の家臣となり、陸軍奉行支配調役に任せられます。

しかし幕府滅亡の日は遠くない。幕府の役人を辞職しようと考えた矢先。

慶応二年十一月、慶喜の弟昭武がフランスに行くにあたり、庶務会計係として随行しろとの命令。

慶喜は建白家といわれる栄一が意見具申するたびに、鼻先で「フン」といい加減に返事をするだけでしたが、栄一の実力を見抜き随行を命じたのです。

かつて若盛り、尊王攘夷に血をたぎらせた栄一は、幕府の家来となり、その上外国へ行かなければいけないとは、複雑な心境でした。

万一のことを考え、妻千代の弟尾高平九郎を養子にします。

この平九郎は、剣の達人で新政府軍と戦った飯能の戦いで、二十一歳の若さで自刃。色白で身長一七九cm、幕末のイケメンの一人として注目されています。

慶応三年正月十一日、昭武はナポレオン三世が開催する大博覧会に、徳川十五代将軍の名代として招待され総勢二十九名。

いずれも、ちょんまげに大小といういで立ち。

フランス船アルヘイ号は、汽笛を響かせ横浜を出航。時に栄一二十八歳、これが大実業家への道となるというお話は、次回の連続として申し上げます。